

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ななしぐれ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400017		
法人名	社会福祉法人 西根会		
事業所名	グループホーム ななしぐれ		
所在地	〒028-7404 八幡平市堀切14-10-7		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「聞きましょう・話しましょう・笑いましょう」の理念に基づき、利用者の皆様が安心して楽しい生活が送れるように支援しています。立地環境は災害に見舞われにくい、安全な土地柄にあります。地域の自発的組織である災害援助協会有り、有事の際にはご協力いただける良い関係性が保たれています。毎月利用者会議が行われ、皆様に意見を出していただき、活動に取り入れられています。敷地内に同法人のデイサービス・居宅介護支援事業所・小規模多機能居宅介護の事業所があり、支援し合える体制があります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、八幡平市役所やJR平館駅に近く交通の便が良く、周囲に田園風景が広がる自然豊かな場所に立地している。同じ法人が運営する小規模多機能ホーム「陽だまりの家平館」、西根北部デイサービスセンターと隣接し、避難訓練や行事と一緒に実施できるなどの協力体制が整っている。開設当初に職員の提案により策定した理念に基づき、利用者一人一人が自分らしく、楽しく、笑顔のある生活ができるよう職員一体となって利用者の支援に努めている。利用者、家族、民生委員、行政、地域住民代表者らで構成する運営推進会議を定期的に開催し、サービスの質の向上に努めている。近隣住民による災害援助協会のメンバーが万一の際に速やかに駆けつけられる体制となっていることや、協力医療機関の八幡平市立病院(内科・外科)の訪問診療が受けられることも事業の強みとして、利用者の安心な生活につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「聴きましょう・話しましょう・笑いましょう」を理念としている。見えやすい場所に掲示して、会議等で唱和して全員で共有している。	平成18年の開設時に策定した理念をホールなど所内の見える場所に掲示するとともに、毎月開催される利用者会議の際に職員と利用者と一緒に唱和し、共有している。毎年度策定する事業計画にはこの理念に基づいて5つの主要事項と詳細な実施項目を掲げてケアの実践につなげている。	利用者が自分らしい暮らしが出来るよう、管理者と職員が一体となって支援しており、これからも創意工夫を凝らしながら、理念に基づき、よりよい介護の実践につなげられるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の活動(花壇整備)に参加させていただいている。日常的な交流はないが地域の催し物に出向いている。	コロナ禍が完全に収束していないため、以前のように中学校との交流やボランティアの受入れなどの交流は十分に復活していないが、それでも、旧村ごとのお祭りを見学したり、開設当初に発足した近隣住民による災害救助協力会の皆さんが万一の際に速やかに駆けつけてくれるなど、日常的な地域との交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催し物に出向くことなどで事業所の活動や支援の方法を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回開催して、利用状況や活動の様子を報告している。地域資源についても伺っている。	ようやく対面方式による開催に戻り、率直な話し合いを行っている。会議では事業所から利用者の状況(ヒヤリ・ハットを含む)や活動の報告を行うとともに構成委員からの意見や質疑を施設運営にできるだけ反映させ、サービス向上に活かしている。管理者は、委員の拡大の必要性を感じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で状況を報告している。市町村担当者からは在宅者の相談を受けたり、他事業所を通じて利用に至ったケースもある。	運営推進会議の委員に市の高齢福祉係長が参画して意見をいただいているほか、市の介護保険認定審査会に職員が参加している。市の職員も出席する法人の入所判定会議(3か月に1回開催)では、在宅者の情報提供を受けるなどの協力関係を築いている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会やアンケート調査を行うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の年間研修計画の中に身体拘束に関する研修が組み入れられ、事業所の全職員が対面で受講して理解を深めている。事業所では年に3回、職員を対象に身体拘束などに関するアンケート調査を行い、各自の問題意識を高めるとともに、管理者が調査結果を分析して取組みの強化に役立っている。施錠は夜間のみとし、スピーチロックについてはお互い声を掛け合って防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に取り組み、言葉の虐待にも注意している。職員間で指摘しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいないが、今後に向けて活用していただけるように具体的に学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前の申し込みの時点で利用については十分な説明を行い、納得いただいてから申し込みいただいている。改定等の際も十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時や電話連絡の際はご要望をお聞きしている。	運営推進会議の委員に利用者及び家族が就任しているほか、毎月利用者会議を開催し、利用者から意見や要望を聞く機会を設けている。家族からの電話や面会のための来所の際に、居室担当が不在でも他の職員が対応できる体制となっている。得られた意見や要望は出来るだけ速やかに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も職員会議等に出席して、意見を交換できるようにしている。申し送り時や日常の中でも提案できる環境にある。	法人では毎年、職員を上級、中級、初級に分けて施設長らが50項目の意識調査を面談によって実施している。施設長が日常的に事務所を訪れて職員から意見や提案を聞く機会を設けている。申し送り時や日常の業務の中でも職員が管理者に気軽に提案できる環境にある。	

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の登用試験、資格取得に取り組んでいる。個々の適性に応じた役割などがあり、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の受講を進め、役職のための資格取得や、スキルアップのための研修への参加を促している。集合研修が難しい時は、リモートで受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	案内はいただくがコロナ禍で交流は出来ていない。主に他事業所とは電話で情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の問い合わせ時から聞き取りに配慮している。ご本人の話を傾聴し安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設見学していただき、ご家族の立場に立って不安、要望を傾聴し関係づくりに務めている。 務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を見極め、他の事業所や他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を見極め、出来る所は行っていただく自立支援に務めている。		

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子をお伝えし、面会や外出、自宅への外泊や差し入れ等、関わりを持っていただけるようにお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加しながら馴染みの場所との関係が途切れないようにしている。趣味を通じた友人や近所の方々に可能な範囲で情報を伝え、本人の意欲、生きがいに繋がるような支援を行っている。	利用者が居住していた平館、大更及び寺田地区の懐かしい夏祭りを見せるため車に全員を乗せて出かけている。趣味(山岳協会など)を通じて知り合った友人や隣接するデイサービスセンターを利用する兄弟が訪れるなど、馴染みの人との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話題を提供し上手くコミュニケーションが図られるように支援している。利用者全員が共有スペースで過ごすことが多く、役割や軽作業は、特定の利用者に偏ることなく、また共同で出来る事は組み合わせを変えて行っていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用時から、終了する場合について、不安を感じることがないように支援させていただくことをお伝えして納得していただいている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前にどのような生活をしてきたのか聞き取り、入居後もどのようにかわれば希望通りの暮らし方が出来るのか意向の把握に努めている。	入居時に家族から生活歴をヒアリングして記録しているほか、入居後も一人一人の希望の把握に努めている。総じて「ゆっくり過ごしたい」という希望が多いことから、そうした気持ちを大切にケアに務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子を本人や家族から情報をいただき、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子を記録し、気付きなどを報告し合っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議やミーティングなどで状況を確認して、意見交換を行っている。家族にも意見を求め、望んでいることなど意見を取り入れながら計画作成している。	毎月の会議で9人の利用者全員の進捗状況を確認し、原則6か月毎に介護計画を更新している。更新に当たっては、ケアマネージャー、居室担当(原案作成)の他、管理者も一職員として協議に加わり、職員全員の意見を加味して作成している。医師の指示や家族、本人の意向も反映している。作成後は家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日記録されている。会議の他にも、申し送り時などに話し合い見直すこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や送迎、受診時の対応を行っている。インフォーマルサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動や催し物に出向いて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医として市立病院の訪問診療を月に1回受けている。他に必要な方と希望される方には専門医を受診して頂いている。	ほとんどの利用者は入居前から協力医の市立病院で受診し、現在も継続している。本人の希望によりかかりつけ医を協力医に変更した利用者もいる。内臓疾患のある1人は、家族が同行して県立中央病院に通院している。協力医の訪問診療の際は本人の状況を報告するとともに職員が立会している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師に相談して主治医に伝えられている。同法人の他事業所の看護師にも相談して対応していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の情報交換は十分に行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	将来的な重度化や終末期については利用前から話し合っている。看取りに関しては、現在事業所の方針が確立されていない為行っていない。看取りについては研修会などで学んでいる。	入居時に家族に対し、将来重度化した場合には特養などの施設への入所や協力医療機関などへの入院もあることを説明している。今まで看取り経験はなく、研修会などで知識を習得している段階である。これまでの経緯から、事業所全体の空気は、看取りを現実的なものと受け止めるまでには至っていないところがある。	利用者が重度化した場合には他施設への移送が常態となっている場合であっても、事業所として重度化した利用者への十分な介護を行うことが出来るよう、職員の研修等の方策を一層重ねられることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示して、個人でも学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。地域の方々による災害援助協力会があり、通報時に出勤の協力も得られている。防災安全チェックリストを毎月実施している。	年2回避難訓練を実施している。避難経路は玄関と居室側の奥と想定し、避難場所は隣接するデイサービスセンターまたは特養むらさき苑としている。ハザードマップ上は浸水想定区域にはなっていない。近隣住民で組織する災害援助協力会が万が一の際は駆けつける体制が出来ている。3日以上の上料と反射式ストーブを備蓄している。職員は市内通勤者が多く、比較的短時間で集合できるとしている。	夜間に火災が発生すると、少人数での対応を余儀なくされるため、年2回の避難訓練のうち1回は発災時を夜間とした場合の課題を把握出来る訓練として実施することを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しい関係を築きながらも、尊重して会話するように心がけている。	理念に基づき、事業所としてその人らしさを尊重したケアの実践に努め、日常の会話も相手を尊重したものとし、トイレではカーテンの外で職員が待機している。掃除、食器の拭き取りなども利用者の希望を尊重して手伝ってもらっている。外出や買物など希望に応じて個別に支援している。	
----	------	--	---------------------------------	---	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に好きなように表現できるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を確認しながら、利用者のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望の物を準備して使用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中にも食べる事の話は多くある。利用者会議などで希望を聞きながら、食べたいものを作って食べる機会がある。	日常会話や毎月開催する利用者会議のときに希望を聞いて献立に活かしている。季節を感じる食材を使用したり、ソフト食やとろみのある食事も提供している。テーブルや食器の拭き取りを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った量や形態で提供している。食事・水分摂取量は毎回確認されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力に応じて支援している。訪問歯科診療を受けて定期的に健診を受けて、指導も頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜トイレを使用していただいている。出来るだけ自分で行えるところまで行っていただき、清潔に気持ちよく生活していただくためにできないところはお手伝いしている。	一人一人の排泄パターンを職員が把握して支援している。自分でトイレに行ける人7人、注意を要する人2人となっているが、いずれも在宅時に比べ改善または状態を維持している。夜間、トイレに行った人の様子を見守っているほか、朝にパンツの取替の声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックしている。味噌汁に海藻を加えたり、乳製品を提供している。毎日歩行練習し運動している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	気の向かない時は無理にすすめていない。気が向いて入りたくなる時間を見てすすめる。外出や受診の前に入浴できるように配慮している。	入浴は週2回(日曜を除く)の午後としているが午前への変更も可能である。浴槽はヒノキ風呂で香が良いので入浴剤は使用していない。入浴時間は1人概ね30分である。着替えは利用者が選んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡は進めているが、日中は活動的に過ごしていただいている。声掛けし本人の希望に沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されるたびに説明書を回覧し全職員が毎回確認している。内服前に呼名し飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者会議や日常の会話の中から好きな事を確認し張り合いが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけている。地域の催し物に出掛けたり家族と予定を立てて外出や外泊される方もある。	隣接するデイサービスセンターまで散歩や運動を兼ねて出かけている。外出時間は決まっていない。家族と外泊(届出必要)することもある。地域の夏祭りを見学しに全員で車で رفتり、ドライブがてら市内の道の駅、ジェラートショップ、隣の田んぼアートを見に行ったこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫でお預かりしているが、希望があれば自由に持ち出しや使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望があれば自由に出来る。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾に心掛けている。リビングや食堂の窓から見える外の景色で季節を感じていただいている。	共用の空間は木をふんだんに使用しており、温かみのある雰囲気となっている。居間も天井が高く、解放感がある。パネルヒーターとエアコンで四季を通じて快適に過ごせるほか、窓からは豊かな自然の景色を眺めることができる。壁面には利用者の作った作品が飾られ、季節を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングの他、廊下の小上がりや居室で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの、好みの物を使っていたき、落ち着いて過ごせるように工夫している。	居室には洗面台、ベッド、押入れ、つり戸棚が備え付けられている。入居時に本人が使い慣れたものを持ち込んでおり居心地よく過ごせる環境となっている。入居前に家族や趣味を同じくする友人らと一緒に撮った写真を壁一面に飾っている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険個所を再アセスメントして対策を講ずるなど、安心・安全に生活できるように務めている。		